

専門委員会セミナー開催のご案内

CT セミナー

(CT 専門委員会)

平成 30 年 4 月 27 日、厚生労働省は医療法の省令を改正し、医療被ばくの線量記録を義務化する方針を公表しました。今夏を目処に省令改正のパブリックコメントを行い、秋頃に公布する予定としている。医療機関の準備期間を考慮し、施行は 2020 年 4 月の見通しと言われております。本邦は世界有数の CT 装置保有大国であり、どこでも CT 検査を受けることが可能で、多くの恩恵を受けている一方、患者 1 人当たりの被ばく線量は諸外国に比べ高いとも言われております。この度の医療被ばくの線量記録義務化を受けて、現場や医療機関での対応が必須となります。今回のセミナーでは、CT 検査での患者被ばく線量管理の運用方法について深めたいと思います。是非、ふるってご参加ください。

日 時：平成 30 年 11 月 24 日(土曜日) 13:00~14:00

場 所：札幌医科大学附属病院 1 階 講堂 (第一会場)

テーマ：「CT 検査での患者被ばく線量管理について考える」

座 長：高林 健 (北海道消化器科病院)

山口 仰 (北海道大学病院)

演 者：CT 検査の被ばく指標について 津元 崇弘 (札幌厚生病院)

CT 線量管理の運用について 箱石 卓 (ジェイマック)

医療情報セミナー

(医療情報専門委員会)

線量情報管理の必要性が唱えられるなか、モダリティから線量情報を収集して一元的に管理する情報システムの導入が徐々に進んできています。実はこの情報収集にも DICOM 規格が用いられていますが、どこで、どのように使われているか知っていますか？ 今回の医療情報セミナーでは医療情報の観点から線量情報管理において知っておくべきことを、DICOM 規格の基礎、既に導入している施設での運用事例、今後のシステム更新に向けた将来構想などを通してご紹介します。

本セミナーは医療情報の初心者の方を対象としており、DICOM の基礎から、わかりやすく説明します。委員一同、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 11 月 25 日(日曜日) 9:30~10:30

場 所：札幌医科大学附属病院 1 階 講堂 (第一会場)

テーマ：「DICOM の基礎から線量情報管理まで ~現場での運用の話もあるよ~」

司 会：谷川 琢海 (北海道科学大学)

演 者：谷川原綾子 (北海道科学大学), 原田 耕平 (札幌医科大学附属病院),

鈴木 達也 (旭川医科大学病院), 安渡 大輔 (北海道大学病院)

計測防護セミナー

(計測防護専門委員会)

医療被ばくの放射線管理において、出力側の適正な調整と受光側の適正な防護は、考慮すべき二大要素と言えます。今回のセミナーでは、これら2つの側面について、それぞれの話題を提供致します。特に、講演では、臨床診断と解剖の観点から、生殖腺防護の有用性について考察して頂ける新しい内容となっております。

日 時：平成 30 年 11 月 25 日(日曜日) 11:10~12:10

場 所：札幌医科大学附属病院 1階 講堂(第一会場)

テーマ：「日常業務における計測防護 No.3」

① 情報提供：「今後求められる医療被ばくの適正管理のあり方について」

演 者：森 泰成 (JCHO 北海道病院 放射線部)

内 容：現在、正当化を重視した院内教育の実施とその記録の義務化、CT・Angio・RI 検査に関する被ばく線量の記録の義務化とその情報提供体制の構築などについて、医療法施行規則の省令改正が平成 32 年 4 月の施行に向けて検討されています。本演題では、厚生労働省の「医療放射線の適正管理に関する検討会」の議事録から、近い将来、医療機関に対応が求められるであろう省令改正の内容と意図について探ります。

② 講演：「一般撮影において性腺防護は必要なのか? ~小児股関節・成人股関節・腰椎について~」

座 長：森 泰成 (JCHO 北海道病院 放射線部)

演 者：柴田 隼 (我汝会 えにわ病院)

内 容：『一般撮影では、性腺防護は必要なのか?』明確に答えが出ていない問題の一つではないでしょうか。しかし、被ばくを気にする患者さんにとって、防護の有無を不適切にすると不信感を与え、大きな問題に発展する可能性をはらんでいます。性腺防護には、メリットとデメリットがあります。これらを理解し撮影することで、より適切な画像の提供が可能となり、患者さんへのインフォームド・コンセントに役立ちます。

本セミナーでは、小児股関節・成人股関節・腰椎に分け、性腺防護すべき場所、臨床で必要な画像範囲、性腺防護の成功率、社会背景などから、各々の施設に合った性腺防護に迫ります。

是非、一般撮影が好きな方、今までの性腺防護の歴史を知っている方、計測防護が好きな方など多くの皆様のご参加とご意見をお待ちしております。

デジタル画像セミナー

(デジタル画像専門委員会)

近年、グリッドを使用せず散乱線を除去（補正）する仮想グリッド処理が各メーカーによって実装されました。当初の適応は胸腹部のみでしたが、現在では整形外科領域にも拡大されています。仮想グリッドを使用することによって、グリッド脱着の手間からの解放、撮影機器の軽量化、撮影線量の低減など様々な恩恵が得られます。しかし、技師として、また使用者として仮想グリッド処理がどのように行われ、グリッドとどのような違いがあり、どんなことに注意して使用しなければいけないかを知っておく必要があります。

本セミナーでは、散乱線の基礎を振り返ったうえで、グリッドと仮想グリッドの違いを図や写真を交えて解説したいと思います。詳しい方には復習に、これから使用する方には今後の参考になると思いますので、是非お気軽にご参加ください。

日 時：平成 30 年 11 月 25 日(日曜日) 9:30～10:30

場 所：札幌医科大学附属病院 2階 臨床第一講義室（第二会場）

テーマ：仮想グリッドってどんなもの？（散乱線の振り返りとともに）

座 長：小笠原一洋（帯広協会病院）

演 者：川原 大典（NTT 東日本札幌病院）

核医学セミナー

(核医学専門委員会)

核医学セミナーでは、新人やローテーションで核医学検査を担当される方々へ向けた内容、そして、既に核医学検査を担当されている方々の再確認の場として、セミナーを開催して参りました。脳や心臓の検査は元より、骨シンチグラフィ検査等においても標準化がうたわれており、各施設で一定以上の画質を担保するために、様々な対策を行っているかと思えます。核医学画像は収集条件や処理条件によって画質が大きく変わるため、最終的に表示される画像に対して、どのような処理が加えられているかを知ることが重要となります。今回は、核医学画像の標準化を分かりやすく解説して参りますので、皆様の参加を心よりお待ちしております。

日 時：平成 30 年 11 月 24 日(土曜日) 13:00～14:00

場 所：札幌医科大学附属病院 地下1階 看護部研修室（第三会場）

テーマ：『核医学画像の標準化について』

座 長：孫田 恵一（北海道大学病院）

演 者：菊池 明泰（北海道科学大学）

MR セミナー

(MR 専門委員会)

今回の MR セミナーは「王道・邪道」というテーマで開催致します。

「王道」として、日頃検査の頻度が高い「頸椎・頸髄」撮像に関して、撮像条件、断面設定、追加撮像のポイントや知っておきたい知識など、MR 初心者の方に解りやすく、ベテランの方には復習や知識のアップデートとなる内容としたいと考えております。

もう一つのテーマは「邪道」専門委員会セミナーとしては文字通り邪道となりますが MR 専門委員が、これまでに経験した症例や、アーチファクトなど、MR に関することを議論するカンファレンス形式を考えております。春季の MR セミナーで高評価頂いた、オーディエンスシステムを使用し、聴講者参加型とする予定で準備をすすめておりますので、多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 11 月 24 日(土曜日) 15:40~17:10

場 所：札幌医科大学附属病院 1 階 講堂 (第一会場)

テーマ：「王道・邪道」

座 長：中西 光広 (札幌医科大学附属病院)

石坂 欣也 (北海道大学病院)

演 者：①王道 (頸椎・頸髄の撮像について)：青池 拓哉 (北海道大学病院)

②邪道 (MR に関するカンファレンス)

消化管&超音波セミナー

(消化管&超音波専門委員会)

今回のテーマは『ちょいワザさんを連れてきた～検査技術のワンランクアップ2～』としました。

春のセミナーの続編です。春に参加された方は続編として楽しめると思いますが、春に参加されなかった方も問題なく勉強になる内容です。講師が多くの実験から培った“ちょいワザ”を披露しますので、余すところなくテクニックを持ち帰っていただきたいと思っております。検査を始めたばかりや少し慣れてきた若い技師に特に参加していただきたい企画です。ベテランの方はぜひとも施設の若い技師をお誘いのうえ参加いただきますようお願いいたします。

みなさんの参加をお待ちしております！

日 時：平成 30 年 11 月 24 日(土曜日) 13:00~14:00

場 所：札幌医科大学附属病院 2 階 臨床第一講義室 (第二会場)

テーマ：『ちょいワザさんを連れてきた～検査技術のワンランクアップ2～』

座 長：中村 俊一 (JA 北海道厚生連帯広厚生病院)

演 者：「胃 X 線検診編～part 2～」

荒井 雅昭 (北海道対がん協会 札幌検診センター)

「腹部超音波編～胆膵編～」

北口 一也 (JA 北海道厚生連札幌厚生病院)

放射線治療セミナー

(放射線治療専門委員会)

当セミナーは、基礎的内容から最新情報も取り入れた内容を考え、皆様のこんなときどうする…を少しでも解決できるセミナー開催を実施してきました。

前回までは放射線治療機本体の点検に関して解説し、今回は治療機本体以外の点検を解説していきます。RTCT, CBCT, OBI, ExacTrac, SyncTrax など本体同様に、毎回の治療にとっても重要な役割があります。このようなモダリティをどのように点検していますか？ 専門委員数名が自施設の点検を例に解説していきたいと思っています。

今まで誰にも聞くことができず、モヤモヤしていたことはありませんか、今回も質疑応答の時間に余裕を持たせています、日頃の悩みや今まで聞けなかったことなど、当セミナーで解決して頂ければ有難いです。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 11 月 24 日(土曜日) 15:40~17:10

場 所：札幌医科大学附属病院 2 階 臨床第一講義室 (第二会場)

テーマ：「こんなときどうする」—放射線治療機本体以外の点検—

座 長：八重樫祐司 (北海道科学大学)

演 者：星野充英・堀田賢治・相澤一宏・齋藤優一・佐々木文博・齋藤 航

アンギオセミナー

(アンギオ専門委員会)

前回のセミナーは「経カテーテル的大動脈治療 (TAVI/TAVR)」についてのお話でしたが、今回はハイブリットオペ室繋がり「大動脈瘤に対するステントグラフト留置術 (TEVAR, EVAR)」についてのお話です。

ステントグラフトとは主に胸腹部大動脈にできてしまった動脈瘤を治療するために留置する、ステント(金属の筒)とグラフト(人工血管)が組み合わされたデバイスになります。国内での企業製ステントグラフトが初めて承認されたのが 2006 年 7 月なので、比較的歴史の浅い治療法ではありますが、以前までの開胸、開腹でのグラフト置換手術に比べて、圧倒的に低侵襲で行うことができるため、それまでの手術適応のなかった、高齢で全身麻酔に耐えうる体力のない患者や、他の合併症のある患者にも施行することが可能となり、飛躍的に件数が増加しています。また件数増加に伴い、より血管解剖が複雑な症例に対しての適応が可能となる新しいデバイスもどんどん発売されるなど、とても HOT な分野です。

こんな知らないよという方にもわかるような基礎的なお話から、術前・術中・術後まで放射線技師がどのように関わっているのか、さらに最新のデバイス情報まで盛り沢山の内容です。お気軽に多数の参加をお待ちしています。

日 時：平成 30 年 11 月 25 日(日曜日) 9:30~10:30

場 所：札幌医科大学附属病院 地下 1 階 看護部研修室 (第三会場)

テーマ：「大動脈瘤に対するステントグラフト留置術 (TEVAR, EVAR)」

座 長：工藤 環 (札幌心臓血管クリニック)

演 者：三ツ井貴博 (市立旭川病院)

整形外科セミナー

(整形外科専門委員会)

整形外科セミナーでは、これまで「受傷機序から考える画像検査」、そして前回の秋季大会では受傷機序が明確でない疾患の代表格「疲労骨折」を取り上げ、整形外科領域においてよく遭遇する疾患から、病態自体に注目しこれらを理解することでより有益な検査を行っていただけるようにと企画してまいりました。

今回のセミナーは、これもまた普段の業務で多く遭遇する受傷機序が明確でない場合が多い「炎症性疾患」を取りあげます。

整形外科分野における「炎症性疾患」は、病態や所見は様々であり一見炎症性ではないように見えても実は炎症性疾患であることも少なくありません。

これまで同様、理解することで検査に有益となる内容をご紹介していきたいと思っております。

皆様と活発な議論ができればと考えております。多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 11 月 25 日(日曜日) 11:10~12:10

場 所：札幌医科大学附属病院 2階 臨床第一講義室(第二会場)

テーマ：「炎症性疾患について考える」

座 長：谷 祐児(旭川医科大学)

演 者：炎症性疾患は何者か(ストレス・石灰化編) 竹内みつお(長沼整形外科)

炎症性疾患は何者か(感染・自己免疫疾患編) 山口 大樹(我汝会えにわ病院)

乳房画像セミナー

(乳房画像専門委員会)

春季大会では、ステレオガイド下吸引式乳房組織生検のアンケート調査報告により、実施する施設間と依頼施設を含めた情報交流を提供し、次に、専門委員の方々から講評をしていただきながら、撮影された画像のポジショニング評価について、会員の皆さんが各施設で実践、指導いただくきっかけの場としていただきました。

そこで、秋季大会のセミナーでは、撮影後、あるいは生検前に重要な読影に注目したいと思います。検査をはじめたばかりの方々から、他のモダリティに携わっているの方々、さらには、研究活動をされている学生さんまで、ぜひ、ご参加ください。

日 時：平成 30 年 11 月 24 日(土曜日) 15:40~17:10

場 所：札幌医科大学大学附属病院 地下1階 看護部研修室(第三会場)

テーマ：「フレッシューズからの MMG 読影」

座 長：杉本 晴美(札幌医科大学附属病院)

Introduction『読影勉強前に プチな注意点』

演 者：堀田 浩(さっぽろ麻生乳腺甲状腺クリニック)

演題『確認しよう！ MMG 読影の基本と最近の知見』

演 者：岡崎 真悟(JA 北海道厚生連 旭川厚生病院)